

道草だより

兵庫医科大学保健管理センター
職員相談室 2018. 10月号

教職員の皆さま、お元気にお過ごしでしょうか。今年の夏は震災や台風上陸など、自然災害が頻発しています。テレビのニュースを見ていると、本当に心が痛みます。被災地の方々が一日も早く落ち着いた生活に戻られることを願うばかりです。

さて皆さま、今回は、少し心がほっとするような『名残手(なごりて)』という言葉についてお伝えしたいと思います。



『名残手(なごりて)』

名残手(なごりて)という言葉があります。料理の器をお客様に出すときに、サッと手を引いてしまうのではなく、名残惜しい気持ちを込めてゆっくり手を引くことです。もともとは茶道の言葉のようです。そこには、相手の人を大事にするとするだけでなく、料理と器も大切にすることが合わせてこめられています。そのような動作は見ていて美しく、誰もが「自分が大切にされている」と感じずにはいられないでしょう。

私たちは、悩んだり、落ち込んだりしている時に、「一緒に頑張りましょう」「そばにいますよ」という姿勢からの言葉に、温かさを感じほっとすることがあります。そして、自分が大切にされていると感じると、心が落ち着きます。心が落ち着くと、自分の苦しみや悩みと向き合うエネルギーや余裕が生まれます。

名残手とは、さりげなさや、美しい立ち振る舞い、温かい手のやり取り、きめ細かい言葉につながります。そして、自分が大切にされたり、そんな光景を見ることができた日には、私たちは自然とハッピーな気持ちになっているのではないでしょうか。

引用参考文献: 医療者の心を贈るコミュニケーション/日下隼人著/医師薬出版株式会社



開室日: 月曜と金曜の週2日(9:00-18:00) 相談室の場所: 9号館5階

TEL/FAX: 0798-45-6121(内線6121) IP(86601)

メールアドレス: k-harada@hyo-med.ac.jp

相談員 原田 久仁美

